

自治体の課題、現状

・野球に関しては、市内全校の合同で1つのチーム「牛久BBC」を作り、活動をしたため、人数は平均して20名を超えていたが、そのほかの種目については、1桁が続いた。この原因として、実証事業を実施した日に、参加者ターゲットの多くが既存の部活動に参加しており、そちらに参加していたことがあげられる。したがって、実証事業を実施する種目の部活動については、休止するなど、英断をしなければならないのが現状であり、それができないと移行は進まないと考える。また、そのような措置を取るには、生徒や保護者への丁寧な説明も必要となるため、説明会等の実施も急務であるとする。

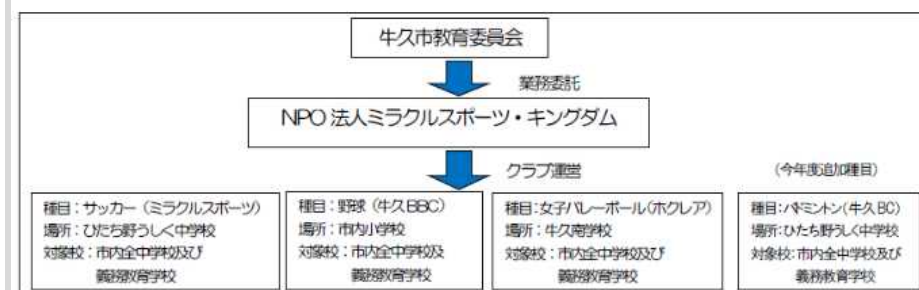
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	6 校	全生徒数	2,213 人
域内の部活動数	60 部	実施した地域クラブ数	4 クラブ
全体の指導者数	23 人	全体の運営スタッフ数	3 人
主な運営団体	NPO法人ミラクルスポーツ・キングダム		
主な種目	軟式野球、女子バレーボール、サッカー、バドミントン		
平均的な活動回数	3 回/月	年間平均参加生徒実数	3 年：5人/クラブ 2 年：10人/クラブ 1 年：10人/クラブ
参加会費	12,000～36,000 円/年	主な活動場所	市内中学校

地域移行関連の取組、成果

・活動場所については、地域移行の種目と学校部活動が平行して実施していることから、施設の確保ができるかどうか懸念されたが、学校長との事前協議によって年間を通して活動場所を確保することができ、施設使用料等がかからないように実施することができた。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県牛久市

自治体名：茨城県牛久市

担当課名：教育委員会スポーツ推進課

電話番号：029-873-2486

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	59 km ²
人口	83,920 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	2,213 人
部活動数	60 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和7年度設置予定
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

今年度の実証事業では、野球、サッカー、女子バレーボール、バドミントンの4種目を実施。野球に関しては、各校で人数がおらず、チームを組めない状況のため、全校合同のチーム「牛久BBC」を作り、持続可能で自走できる方略を探った。

サッカー、女子バレーボールに関しては、参加者数が、1桁が続き、0人であることさえあった。この原因として、実証事業を実施した土日に部活動も同時に実施されていたことがあげられる。このことから、学校との調整が必要不可欠であるといえる。

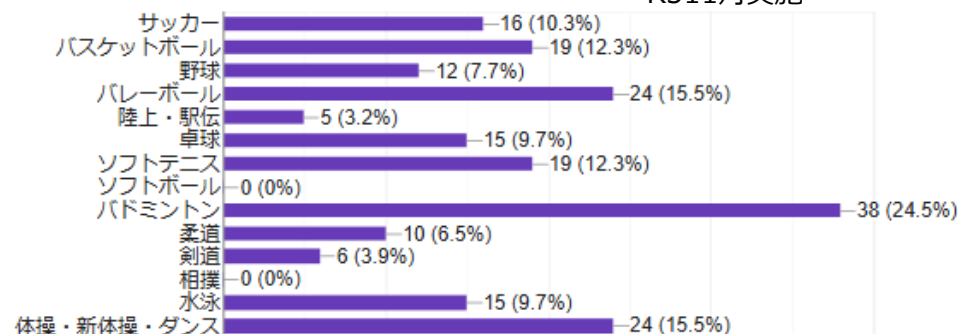
また、バドミントンに関しては、当市には部活動自体はないが、昨年度に実施したアンケートでやってみたい種目で一番多かったため、採用したが、参加者数はこちらも1桁が続いた。この原因としては、PR不足やその他部活動が実施されていることで、参加者は部活動に参加して集まらなかったのではと考える。

参加者が少ないということは収入が少なく、クラブの存続も危ぶまれ、補助金は永続的にあるものではないことから、1つ1つのクラブが自走するための方略や参加者を増やす方略を調査することは、引き続きの課題であるといえる。

今行っている部活動の種目以外に、どんな活動をやりたいですか？（最大3つまで）

155件の回答

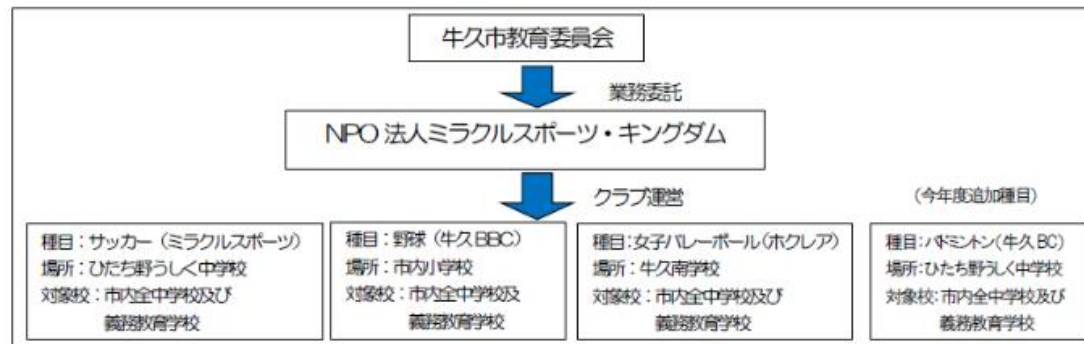
牛久市実施アンケート
R511月実施



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・NPO法人ミラクルスポーツ・キングダムとの業務委託契約
- ・参加者や参加費の管理
- ・学校との調整

◎首長部局

- ・予算措置等事務

年間の事業スケジュール

令和6年 6月	実証事業開始・月3回活動実施
令和6年 7月	月3回活動実施
令和6年 8月	月3回活動実施
令和6年 9月	月3回活動実施
令和6年 10月	月3回活動実施
令和6年 11月	月3回活動実施
令和6年 12月	月3回活動実施
令和7年 1月	月3回活動実施
令和7年 2月	月3回活動実施・各部顧問との意見交換会の実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	23 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
牛久BBC	×××× ××××	野球	月 3 回	9～12時	約23名	6～3月	市内中学校	8 人	0 人	月会費 3,000 円	その他：地域 クラブ
ホクレア	×××× ××××	女子バレー ボール	月 3 回	16～19 時	約3名	6～3月	市内中学校	4 人	0 人	月会費 1,000 円	その他：地域 クラブ
NPO法人ミ ラクルスポー ツキングダム	×××× ××××	サッカー	月 3 回	9～12時	約6名	6～3月	市内中学校	3 人	3 人	月会費 1,000 円	その他：地域 クラブ
牛久BC	×××× ××××	バドミントン	月 3 回	13～16 時	約3名	6～3月	市内中学校	8 人	0 人	月会費 1,000 円	その他：地域 クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

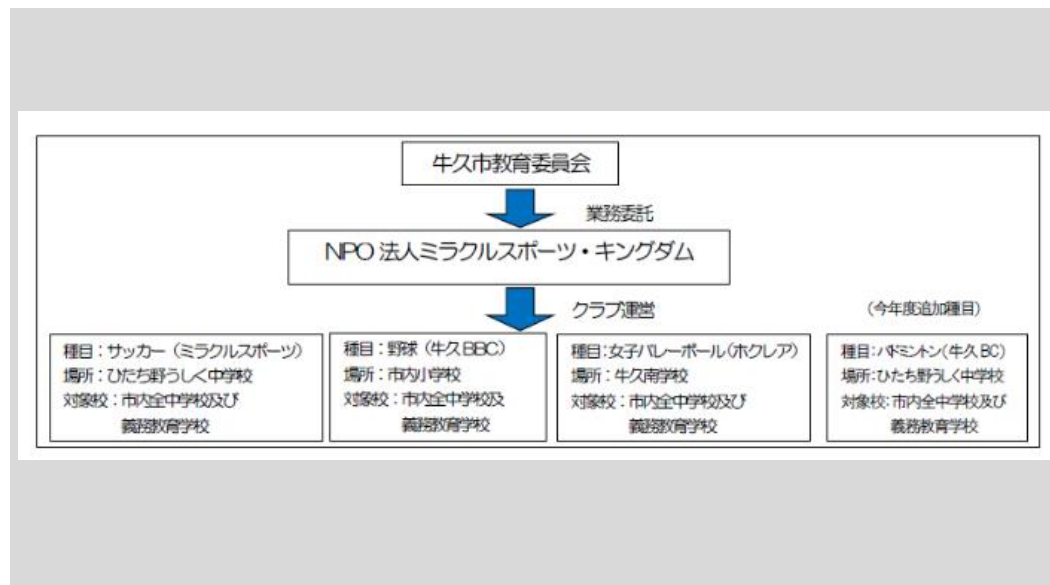
2.実証内容と成果

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球、女子バレーボール、バドミントン
運営団体名	NPO法人ミラクルスポーツ・キングダム
期間と日数	サッカー：6月～3月 月3回 野球：6月～3月 月3回 女子バレーボール：6月～3月 月3回 バドミントン：6月～3月 月3回
指導者の主な属性	民間スポーツ事業者運営型
活動場所	市内中学校体育館及びグラウンド
主な移動手段	保護者の送迎や自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円 野球：36,000円 女子バレーボール：12,000円 バドミントン：12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：各指導者への連絡調整及び謝金の支払いを行う

●主任指導者 23名

役割：指導を行う

●運営補助者 2名

役割：統括責任者の補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

モデル事業で実施している種目については、地域の指導者を年間を通して派遣することができたため、人材の確保はできているという可能性が示された。

しかしながら、モデル事業で実施していないほかの種目の指導者の確保については、未知数であるため、今後も調査を進めていく必要がある。

種 目	人 数
野球	8名
女子バレーボール	4名
サッカー	8名
バドミントン	8名

コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターの設置なし

今後の課題と対応方針

持続可能な運営という観点で課題が見られた。現在は、県からの補助金を用いて運営を成り立たせている部分が多い。しかし、補助金を頼りにしては、持続的な運営とは言えないため、次年度は、自らの資金を用いて持続的に運営するための方略を明らかにすることが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

指導者に対して、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。

人材バンクの人数

0名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	0名
40代	0名
50代	0名
60代以上	0名

登録者属性

種目

資格有無

取組の成果

実施できなかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・実施できなかった。

受講者の声

- ・指導者が子供達と年齢が近く、話しやすい雰囲気であり、部活動よりも長い時間でしっかり指導もしていただいた。
- ・学校の部活とは違う練習メニューを色々たくさんできたのでとても良かった。
- ・コーチがとてもフレンドリーで毎回すごく楽しかった。

指導者研修の参加実績

- ・実施できなかった。

今後の課題と対応方針

地域クラブが中体連主催の大会に出場する場合、競技によっては指導者の資格が必要な場合があるため、今後、資格取得の促進等を行うことが必要であるとする。また、各競技ごとに必要な資格が大きく異なるため、整理が必要であるとする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

指導者の派遣、民間施設利用、
監修教材の提供・講師派遣など
について連携する。

取組の成果

指導者の派遣については、運営主体であるNPO法人ミラクルスポーツ・キングダムと連携することで、スポーツに長年関わってきた経験があり、育成年代の指導に対しての知見と意欲を持っている指導者を派遣できるよう取り組んだ。

バス等の運行実績

・実施なし

バス等の運航経費・収入

・実施なし

今後の課題と対応方針

生徒が経験できる活動を1つでも増やすことを考えると、今後多くの指導者の確保や活動場所である施設の確保が必要となる。特に指導者は、人数と指導者の質の両方が重要であるため、人材バンクの活用や部活動指導員など様々な制度を利用する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

会費の適切な設定・徴収方法の検討や、保護者負担経費の調査を行う。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析
実施できなかった。

■ランニングコストの分析
実施できなかった。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

実施できなかった。

収支バランス

実施できなかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

○学校へ訪問し、事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

取組の成果

実証事業は主に日曜日の活動であったため、学校部活動の多種目と活動場所が重複する可能性があった。しかし、学校長と事前に協議を行い、すべての実証事業該当種目で学校を使用することができたことは、本取り組みの成果であるといえる。

種目	場所
野球	市内中学校グラウンド
サッカー	ひたち野うしく中学校グラウンド
女子バレーボール	牛久南中学校体育館
バドミントン	ひたち野うしく中学校体育館

今後の課題と対応方針

学校部活動の受け皿となる地域クラブの活動が増えると、学校施設を使用するうえで、地域移行していない学校部活動と重複する部分が増える可能性がある。休日の部活動を地域に移行するという目的を達成するた

めには、土日の学校部活動の取り組みを廃止することが必要である。そのための受け皿の確保や教員・保護者の理解を得る取り組みが必要となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

・実施できなかった。

取組の成果

・実施できなかった。

指導者の属性や配置の工夫

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

今後の課題と対応方針

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度の実証事業では、野球、サッカー、女子バレーボール、バドミントンの4種目を実施した。野球に関しては、各校で人数がおらず、チームを組めない状況のため、全校合同のチーム「牛久BBC」を作り、活動を開始した。指導者は顧問の先生の兼職兼業と地域の指導者で構成して、活動した。

サッカー、女子バレーボール、バドミントンに関しては、参加者数が、1桁が続き、0人であることさえあった。この原因として、実証事業を実施した土日に部活動も同時に実施されており、わざわざ実証事業には参加しなかった、また、当市のPR不足が影響していることがあげられる。このことから、学校との調整が必要不可欠であり、実証事業を実施する種目については、土日の活動は休止し、実証事業のみとするなどの英断をする必要がある。

また、参加者が少ないということは収入が少なく、クラブの存続も危ぶまれ、補助金は永続的にあるものではないことから、1つ1つのクラブが自走するための方略を調査することが、引き続きの課題である。

●成果の評価

当実証事業では、受益者負担を少しでも減らせるように、生徒の安全を確保するため、学校体育施設の使用を促進した。昨年度も同様に学校体育施設の使用していたので、定着してきていると考える。

今後についても、使用料のかからない学校体育施設の使用をベースとし、学校長との調整も継続していきたい。

●今後に向けて

土日の学校部活動が続いていく限り、地域クラブ活動への移行は進まないと考えるため、どこかのタイミングで土日の学校部活動を休止する英断をする必要がある。そのためには、教育委員会及び学校での意思疎通及び合意形成が必要不可欠であるため、その強化を図っていきたい。

また、協議会を設置できていないため、協議会を設置し、地域移行への促進を図っていきたい。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

**令和6年度
運動部活動の地域移行モデル事業
参加者募集**

種目	場所	日時	参加費
 【サッカー】 指導者：NPO法人ミラクルスポーツ・キングダム	ひたち野うしく中学校 グラウンド 雨天時： ひたち野うしく中学校 体育館前庭併用可	日曜日 9時～12時	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定
 【野球】 指導者：NPO法人ミラクルスポーツ・キングダム ※6月でこの活動は終了し、7月より牛久バスボールクラブでの活動となります。	牛久第一中学校 グラウンド 雨天時： 牛久第一中学校 プロムナード	日曜日 9時～12時	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定
 【バレーボール】 指導者：ホクレア	牛久南中学校体育館	日曜日 16時～19時	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定
 【バドミントン】 指導者：うしくBC	ひたち野うしく中学校 体育館	日曜日 13時半～16時半 ※都合で変更のため、7月、8月の実施はありませんので、ご了承ください。	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定

『いろいろなことにチャレンジしてみませんか！』
 自分が「これだ」と思えるものに会えるようにどんどん挑戦してみよう！
 人それぞれの「きっかけ」が見つかるかもしれません。

※強制参加ではありません。希望者のみの参加となります。

問い合わせ：牛久市教育委員会スポーツ推進課（牛久運動公園内）
TEL 029-873-2486

【生徒への参加啓発チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【モデル事業野球】



【モデル事業野球】



【モデル事業野球】



【モデル事業野球】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和 6 年

・モデル事業の実施

月に3回日曜日に地域移行のモデル事業として、地域の指導者が行う活動を4種目（野球、サッカー、女子バレーボール、バドミントン）実施した。

野球に関しては、各校で人数がおらず、チームを組めない状況のため、全校合同のチーム「牛久BBC」を作り、活動をした。そのため、参加者は毎回平均で20名ほどいた。

しかし、そのほかの種目（サッカー、女子バレーボール、バドミントン）は、学校部活動との練習時間とも被り、参加者が少なかった。そのため、学校との連携及び土日の学校部活動を実施しない等の決断も必要である。

また、各種目の顧問を集め、現状の調査の実施もした。

令和 7 年

・モデル事業の実施
・学校現場との調整
・協議会設置、検討開始
・人材バンクの設置

令和7年度については、自走できる地域クラブの方略の調査や受け皿となるクラブ探しを実施する。

また、協議会を設置し、地域クラブ活動の促進を図り、広報活動の強化も図る。

人材バンクも設置し、指導者の確保に努める。

令和 8 年

地域クラブ活動
の開始

令和8年度の総体終了後に完全移行を目指す。

また、令和7年度に引き続き人材の確保に努める。

令和 9 年

地域クラブ活動
の拡大

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動の地域移行 今後のロードマップ（案）

